

2019年度第1回日本語教育研修会

“21世紀型スキル”を育てる 授業活動とその評価

2019年11月9日(土)・10日(日)
日本台湾交流協会

国際交流基金日本語国際センター
専任講師主任 築島史恵

コンピテンシーを重視した教育の世界的潮流

1980年代後半

経済発展のための知識、技術、サービスに注目

×工業社会 ○知識基盤社会の到来

⇒人的資源への関心の高まり、開発に向けた動き

⇒能力観の変化

リテラシーからコンピテンシーへ



1

コンピテンシー

(OECD DeSeCoプロジェクト) 1997-2003

- ある特定の文脈における複雑な要求に対し、
認知的・非認知的側面を含む心理・社会的な
リソースを活用して、うまく対応する能力

何か協力することを要求される

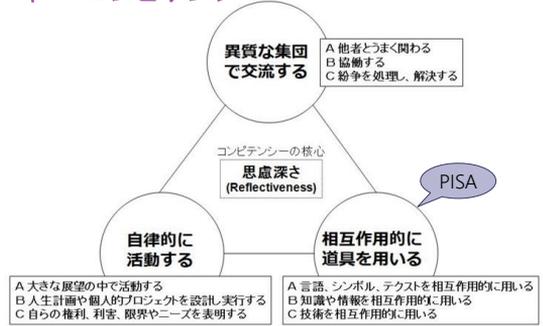


内的リソースを結集し、対応する

(知識、スキル、態度、感情、価値観と倫理、動機づけ)

2

キー・コンピテンシー

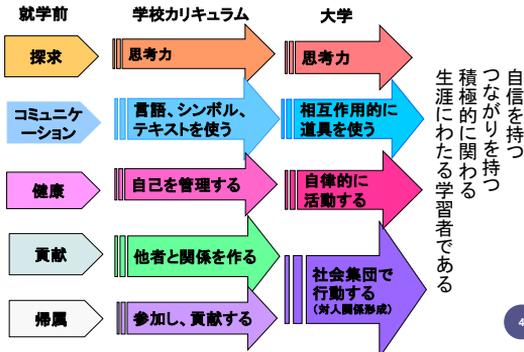


文部科学省 育成すべき資質・能力を踏まえた教育目標・内容と評価の
在り方に関する検討会資料 (国立教育政策研究所)

3

NZカリキュラム:

コンピテンシーの育成をめざした就学前、学校、大学の連携



参考: 国立教育政策研究所「社会の変化に対応する資質や能力を育成する教育課程編成の基本原則」

4

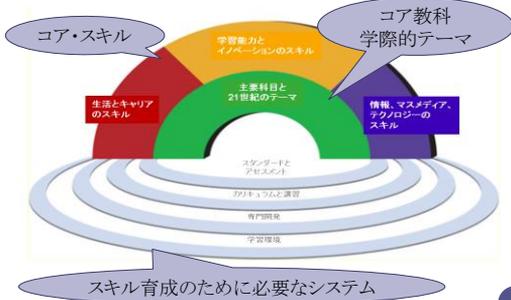
EU独自のコンピテンシー 2006

- ① 母語でのコミュニケーション
- ② 外国語でのコミュニケーション
- ③ 数学的コンピテンシーと
科学および科学技術における
基礎的コンピテンシー
- ④ デジタル・コンピテンシー
- ⑤ 学ぶことの学習
- ⑥ 社会的・市民的コンピテンス
- ⑦ イニシアチブの精神と起業家精神
- ⑧ 文化的気づきと表現

5

21世紀型スキル

(21世紀型スキルパートナーシップ) 2002



熊平美香公式サイト「パートナーシップ フォー 21st センチュリー スキル(P21)」
https://www.a-kumahira.com/2012/04/18/st_p/

6

21世紀型スキル(ATC21s)

2009-2010

- 21世紀は、情報知識基盤社会。
ICTによって社会的なつながり方も変わってきている。
- そのような21世紀に必要なスキルは、ICTを活用しながら、生徒同士が互いに理解を深め合い、あるゴールを達成するにつれて新しいゴールを見出し、新しい課題を自ら設定してそれを解きながら前進してゆく創造的で協調的なプロセスを引き起こすスキル
- 世界の教育学者や政府、国際機関と連携して、以下4つのカテゴリーからなる10のスキルを定義

7

- 思考の方法 (Ways of Thinking)
 - 【1】創造性とイノベーション
 - 【2】批判的思考、問題解決、意思決定
 - 【3】学び方の学習、メタ認知 (認知プロセスに関する知識)
- 働く方法 (Ways of Working)
 - 【4】コミュニケーション
 - 【5】コラボレーション (チームワーク)
- 働くためのツール (Tools for Working)
 - 【6】情報リテラシー
 - 【7】ICTリテラシー
- 世界の中で生きる (Skills for Living in the World)
 - 【8】地域とグローバルのよい市民であること
 - 【9】人生とキャリア発達
 - 【10】個人の責任と社会的責任
(異文化理解と異文化適応能力を含む)

8

地域、国など	イギリス	ドイツ	フランス	フィンランド	アメリカ	カナダ	オーストラリア	ニュージーランド	シンガポール	韓国
能力の名称	キースキル	コンピテンシー	共通基礎	コンピテンシー	大学・キャリアデザインスキル (21世紀型スキル)	学習スキル (21世紀型スキル)	実用的能力	キーコンピテンシー	21世紀型コンピテンシー	核心力量
能力に基づく教育課程	1999年課外活動カリキュラム導入	2002年に30%強 (義務学校、義務中等学校) の教育スタンダード策定	2006年 学習課程の改訂	1994年 教育課程の改訂 (21世紀型スキルの導入)	2010年 コモンコアスタンダード (21世紀型スキルの導入)	1997年 オンタリオ省の教育課程 (21世紀型スキルの導入)	2008年 メルボルン宣言 (21世紀型スキルの導入)	2007年 12月 2009年 12月 2012年 12月	2010年に「カリキュラム」の改訂	2009年 学習課程の改訂
教育課程の編成	キースキルと思考スキルをカリキュラムを通して育成	教科で育成するだけでなく、生活にも関連するスキルを育成	義務教育課程で育成する	義務教育課程で育成する	義務教育課程で育成する	義務教育課程で育成する	義務教育課程で育成する	義務教育課程で育成する	義務教育課程で育成する	義務教育課程で育成する
対象となる教科・領域	英語、算数、科学、歴史、芸術、ICT	英語、算数、科学、歴史、芸術、ICT	英語、算数、科学、歴史、芸術、ICT	英語、算数、科学、歴史、芸術、ICT	英語、算数、科学、歴史、芸術、ICT	英語、算数、科学、歴史、芸術、ICT	英語、算数、科学、歴史、芸術、ICT	英語、算数、科学、歴史、芸術、ICT	英語、算数、科学、歴史、芸術、ICT	英語、算数、科学、歴史、芸術、ICT

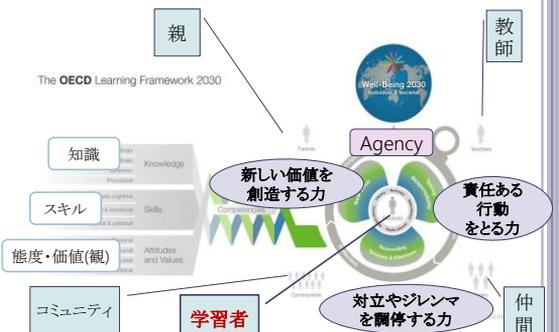
文部科学省 育成すべき資質・能力を踏まえた教育目標・内容と評価の在り方に関する検討会資料 (国立教育政策研究所)

DeSeCo	EU	イギリス	オーストラリア	ニュージーランド	(アメリカほか)
キーコンピテンシー	キーコンピテンシー	キースキルと思考スキル	汎用的能力	キーコンピテンシー	21世紀スキル
相互作用的な道具活用力	言語、記号の活用	第二言語の活用	コミュニケーション	リテラシー	基礎的なリテラシー
技術的活用力	コミュニケーション	コミュニケーション	リテラシー	リテラシー	基礎的なリテラシー
反省性(考える力) (協働する力) (問題解決力)	批判的思考	批判的思考	批判的思考	批判的思考	批判的思考
自律的な行動力	自己管理能力	自己管理能力	自己管理能力	自己管理能力	自己管理能力
異質な集団での交流力	社会的責任	社会的責任	社会的責任	社会的責任	社会的責任

参考: 文部科学省 教育課程企画特別部会 論点整理 補足資料

10

Education 2030 プロジェクト 2015-2018



参考: 文科省 Learning Framework 2030 白井俊「OECDにおけるAgencyに関する議論について」

カリキュラムの再設計原則(一部)

○コンセプト

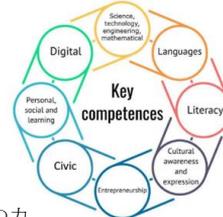
- ・カリキュラムは、学生に刺激を与え、事前知識、技能、態度、価値観が認識できるようにデザインする。
- ・挑戦的で、深い考えを必要とする課題を用意する。
- ・新しい学びを評価できる新しい評価方法を開発する。
- ・十分な事前情報のもとで、様々な課題やプロジェクトを柔軟に選択できるようにする。

○プロセスデザイン

- ・専門知識や専門スキルを活用できるような環境を保証する。
- ・協調的な学習により学習体験を現実の世界に結びつけ、目的意識を持たせる。
- ・課題が現実の生活や他の課題と関連していることを発見する機会を与える。

12

EU キーコンピテンスに関する新たな提言 (外国語教育に関連が深いと思われるポイント)



②外国語によるコミュニケーション

→多言語能力

- ・自身の希望や必要に応じ、適切な範囲の社会的・文化的文脈で用いる理解、表現、解釈の力
- ・概念、思考、感情、事実及び意見を理解、表現、解釈する能力
- ・口頭および筆記の両方の形

13

Kivinen 「A SHORT INTRODUCTION TO THE NEW KEY COMPETENCES FOR LIFELONG LEARNING」

⑤学ぶことの学習 → 個人的・社会的学習能力

- ・自分自身と向き合い、時間・情報の効率的管理を行う
- ・さまざまな視点の表現と理解、共感を感じる能力
- ・学習プロセスと障害、変化を処理する能力をサポートする問題解決の姿勢

⑦イニシアチブの精神と起業家精神 → 起業家精神力

- ・創造性、批判的思考、問題解決能力、先導力、忍耐力
- ・不確実さ、あいまいさ、リスクに対処する能力
- ・プロジェクトの計画・管理のための協働力、勇気、忍耐力

⑧文化的気づきと表現 → 文化的知識と文化的表現力

- ・それぞれの考え方や意味の独創的な表現を理解・尊重できる能力。
- ・様々な方法や文脈で、自己表現や社会での役割等について理解し、発展させ、伝える

14

日本語の授業の中で養える21世紀型スキル

- ★ 今までの授業でやってきたことの中から、(実は、すでに行っていた) 21世紀型能力の育成に関わる授業方法や活動を探してみましょう。
- ★ 今までの授業でやってきたことの中に、新しく21世紀型能力の育成を意識化できる授業方法や活動を加えることを考えてみましょう。

15

授業を“21世紀型スキル”の視点で見直す

例「読解」(1)

多言語能力

- ・自身の希望や必要に応じ、適切な範囲の社会的・文化的文脈で用いる理解、表現、解釈の力
- 背景知識(スキーマ)の活性化、前作業

例「読解」(2)

個人的・社会的・学習能力

- ・さまざまな視点の表現と理解、共感を感じる能力、協働力
- ・学習プロセスと障害、変化を処理する能力をサポートする問題解決の姿勢
- ピア・リーディング、読解ストラテジー

16

例「作文」(1)

多言語能力

- ・自身の希望や必要に応じ、適切な範囲の社会的・文化的文脈で用いる理解、表現、解釈の力
- コミュニケーションな課題設定

例「作文」(2)

個人的・社会的・学習能力

- ・学習プロセスと障害、変化を処理する能力をサポートする問題解決の姿勢

起業家精神力

- ・創造性、批判的(戦略的)思考、問題解決能力
- シンキングツールの利用

17

例「作文」(3)

多言語能力

- ・概念、思考、感情、事実及び意見を理解、表現、解釈する能力

起業家精神力

- ・不確実さ、あいまいさ、リスクに対処する能力
→書き方の指導・添削・評価 の見直し

例「作文」(4)

個人的・社会的・学習能力

- ・さまざまな視点の表現と理解、共感を感じる能力

起業家精神力

- ・プロジェクトの計画・管理のための協働力、勇気、忍耐力
→ピア・レスポンス

18

CEFR COMPANION VOLUME

WITH NEW DESCRIPTORS (補遺版) 2018.2

仲介活動

- (1) テキストを仲介する
- (2) 概念を仲介する
 - * Collaborating in a group
 - ・Facilitating collaborative interaction with peers
 - ・Collaborating to construct meaning
 - * Leading group work
 - ・Managing interaction
 - ・Encouraging conceptual talk
- (3) コミュニケーションを仲介する
 - ・Facilitating pluricultural space
 - ・Acting as an intermediary in informal situations
 - ・Facilitating communication in delicate situations and disagreements

19

例「文法指導」(1)

起業家精神力

- ・創造性、批判的(戦略的)思考、問題解決能力、先導力、忍耐力
- ・不確実さ、あいまいさ、リスクに対処する能力
→発見学習

例「文法指導」(2)

多言語能力

- ・自身の希望や必要に応じ、適切な範囲の社会的・文化的文脈で用いる理解、表現、解釈の力
- ・概念、思考、感情、事実及び意見を理解、表現、解釈する能力
→文法項目の選択、例文 の見直し

20

教科書のadaptation(適応化)

- 教科書は学習の目的を果たせるか?
- 教科書の内容で、目的に合わないところはないか?
- 教科書の内容で、順番を変えたほうがいいところはないか?
- 教科書の活動は、学習の目的に合っているか?
- 教師がやること・学習者がやることのすみわけを意識した授業設計ができていますか?
- 個人がやること・グループ活動のすみわけを意識した授業設計ができていますか?

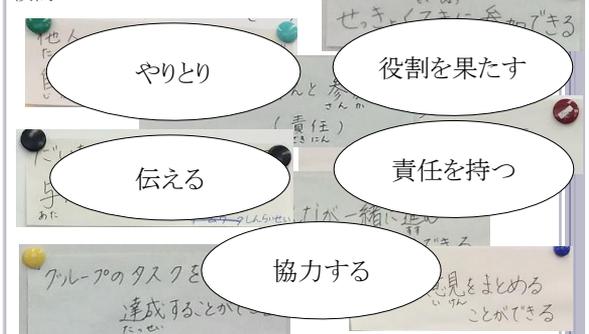
21

21世紀型スキルの評価

(「にほんご人フォーラム」2017より)

国	タイトル	内容
インドネシア	健康のためにすること	健康のためにしたほうがよいことを考える →呼びかけのポスター発表
タイ	ごみを分けよう	ごみの分別を勧めるスローガンを考える →スローガンの発表
フィリピン	防災たいそう	災害が起きたときにする行動を体操にする →体操のデモンストレーション
ベトナム	マイフォトアプリ	自分達が将来使いたいフォトアプリを考える →アイコンやアピールポイントのポスター発表
マレーシア	お正月の準備	多民族性を活かした正月の準備(飾りつけ等) →部屋の絵のポスター発表

コラボレーションの評価観点の検討



ルーブリックの作成

	もう少し	できた	よくできた
やりとり			
協力			
役割			

評価ポイント	C あまりできなかった	B つづいたがあった／すこしできた	A Standard	S とてもよくできた
①グループの目標のために、「役割」「材料（使うもの）」を決めることができる	なかなか役割をわけられない。時間内に決められない	先生やほかのグループの人が手伝って決められる	時間と役割と材料を時間内に決められる	時間と役割と材料を早く決められる（先生が決めたポイント以外の情報を入れることができる）
	仕事を分けず、一人か二人です。時間を守ることができない。使ったものをきれいかたづけられない。	仕事を分けても、責任を持っていない。時間が少しかかる。使いたいものを自分で決められる。	仕事を分けて、責任を持つ。時間をよく守る。使いたいものをいっしょに決めて使う。使ったものをきちんとかたづける。	
	やることのない人がいる	自分が得意なことしかやっていない。	決まっている時間通りに完成できる。みんなやることがある。いい結果を出すために、使うものをきめることができる。	自分の役割以外に、ほかの人をたづねることができる。

（「にほんご人フォーラム」2016より）

評価ポイント	C あまりできなかった	B つづいたがあった／すこしできた	A Standard	S とてもよくできた
②自分の意見やアイデアを友達に言う	自分の意見をださないで、だまっただけの人の意見を聞いている	他の人の意見をじゅうぶんに考えないで賛成する	自分の意見を出すことができる	理由を言いながら意見を出して、ほかの人がよくわかるようにする
↓ 自分の意見やアイデアをだす	リーダーが一人で決める	グループの中の3人が意見を出すことができる	グループの中でだれでも意見を出すことができる	説得ができる
	参加したくない、テーマに興味がない、自分のアイデアがない	つたえたいことをうまくつたえられない	意見やアイデアをうまくつたえることができる	
		つたえたいことを全部はつたえられない		

評価ポイント	C あまりできなかった	B つづいたがあった／すこしできた	A Standard	S とてもよくできた
③友だちがわかるように、くふうしたり、かんたんことばを使ったりして説明する。	自分の意見を言うとき、ほかの人がぜんぜんわからない	自分の意見を言うとき、わかる人もわからない人もいる	自分の説明内容がほかの人がわかる	ほかの人がわかるように、かんたんことばで説明してから、わかったかどうか確認できる
	友だちがわからなくて困っているも、助けてあげない	友だちがわからなくて困っているとき、助けてあげようとするが、説明がわかりにくい	友だちがわからなくて困っているとき、もう一度、かんたんことばやジェスチャーで説明できる	友だちがわからなくて困っているとき、友だちがわかるように、写真やICTなどで説明できる。友だちがわかることばで説明できる

評価ポイント	C あまりできなかった	B つづいたがあった／すこしできた	A Standard	S とてもよくできた
④バラバラの意見を、みんなで協力して、ひとつにまとめることができる。	一人だけの意見をほかの人にも賛成させる	まとまった意見に賛成しない人がいる	みんなの意見やアイデアをいっしょにまとめることができる	みんなの意見やアイデアをいっしょにまとめて、確認できる
	時間がオーバーしても一つにまとめられない	能力（日本語力・アイデア）が高いメンバーが一人で決める	みんなですぐまとめる。ほとんどの人が賛成する	はやく一つにまとめることができる。みんなが賛成する
	ひとりだけ？	ふたり、さんじん 40-60%？	ほとんど？ 80%？ 100%？	みんな？ 100%？

ディスカッションポイント

- ・「いつ」:「プロセス」を見ることの重要性
- ・「誰が」:教師、自己、ピアによる評価の可能性。
- ・「誰を」:グループの評価か、個人の評価か。
- ・「どのように」:すべての授業について、すべての観点を同じように評価する必要はない。
授業の目標や教師の目的によって、選択できるようなルーブリックを作ったほうがいい。